

2026年度 数学科 年間授業計画表						
科目名	数学Ⅱ・B・C	単位数	3・1・1	学年・類型	2年 文系	
担当者	使用教科書		高等学校 数学Ⅱ・B・C (数研出版)	副教材	クリアー数学Ⅱ+B, C (数研出版) チャート式Ⅱ+B, C (数研出版)	
科目の目標 (指導目標)	<ul style="list-style-type: none"> ・数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。 ・数学を活用して事象を論理的に考察する力、事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。 ・数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善しようとする態度や創造性の基礎を養う。 					
評価の観点とその趣旨						
①知識・技能	基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。					
②思考・判断・表現	<p>数の範囲や式の性質に着目し、等式や不等式が成り立つことなどについて論理的に考察する力、座標平面上の図形について構成要素間の関係に着目し、方程式を用いて図形を簡潔・明瞭・的確に表現したり、図形の性質を論理的に考察したりする力、関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を数学的に考察する力、関数の局所的な変化に着目し、事象を数学的に考察したり、問題解決の過程や結果を振り返って統合的・発展的に考察したりする力を養う。</p> <p>離散的な変化の規則性に着目し、事象を数学的に表現し考察する力、確率分布や標本分布の性質に着目し、母集団の傾向を推測し判断したり、標本調査の方法や結果を批判的に考察したりする力を養う。</p> <p>大きさや向きをもった量に着目し、演算法則やその図形的な意味を考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。</p>					
③主体的に学習に取り組む態度	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善しようとする態度を身に付けている。					
評価方法						
記述の点検、確認、分析 行動の点検、確認、分析 (定期テスト、小テスト、課題レポートやその他提出物等への取組状況、授業への取組状況 等)						
学習指導計画						
時期	単元名	使用教科書項目	単元や題材など内容のまとめりごとの目標	評価の観点		
				①	②	③
1学期前半	【数学Ⅱ】 第4章 三角関数	第1節 三角関数	角の概念を一般角まで拡張して、三角関数に関する様々な性質や式とグラフの関係について多面的に考察できる。	○	○	
		第2節 加法定理	加法定理を理解し、それらを事象の考察に活用できる。	○	○	○
1学期後半	第5章 指数関数と対数関数	第1節 指数関数	指数関数について理解し、それらを事象の考察に活用できる。	○	○	
		第2節 対数関数	対数関数について理解し、それらを事象の考察に活用できる。	○	○	○
	【数学B】 第1章 数列	第1節 等差数列と等比数列	数列やその一般項の表し方について理解する。また、基本的な数列として等差数列と等比数列を理解し、それらの和を求められるようにする。また、これらの数列を様々な事象の考察に役立てようとする姿勢を養う。	○		
2学期前半	第1章 数列	第2節 いろいろな数列	和の記号 Σ の表し方や性質を理解し、活用できる。また、いろいろな数列について、その一般項や和を求めたり、和から一般項を求めたりできる。	○	○	
		第3節 漸化式と数学的帰納法	数列の帰納的な定義について理解し、漸化式から一般項が求められるようにするとともに、複雑な漸化式を既知のものに帰着して考えられるようにする。数学的帰納法の仕組みを理解し、様々な命題の証明に活用できる。	○	○	○
	【数学C】 第1章 平面上のベクトル	第1節 ベクトルとその演算	向きと大きさをもつ量としてのベクトルの意味およびその演算について理解し、成分表示も含めてベクトルの演算ができる。また、ベクトルの内積について理解し、平面上のベクトルのなす角について考察できる。	○		
		第2節 ベクトルと平面図形	位置ベクトルについて理解し、位置ベクトルを図形の性質を調べるのに活用できる。図形を、ベクトルを用いて表せることを理解し、基本的な図形のベクトル方程式や、ベクトル方程式が表す図形を求めることができる。	○	○	○

2 学期 後半	第2章 空間のベクトル	—	平面上のベクトルの拡張として空間のベクトルを捉え、空間図形の性質の考察などに活用できる。また、それに関連して、座標空間における点や図形について考察できる。	○	○	○
	【数学Ⅱ】 第6章 微分法と積分法	第1節 微分係数と導関数	微分係数や導関数の意味について理解し、それらの有用性を認識するとともに、事象の考察に活用できる。	○		
第2節 関数の値の変化		導関数の理解を深めるとともに、導関数の有用性を認識できる。	○	○		
第3節 積分法		積分の考えについて理解し、それらの有用性を認識するとともに、事象の考察に活用できる。	○	○	○	
3 学期	数学総合演習	—	既習内容の復習	○	○	○
留意事項						

教科	科目	単位数	学年	集団
理科	生物基礎	2	2	文系・理系（物理選択者）

使用教科書	副教材等
生物基礎（数研出版）	セミナー生物基礎（第一学習社） スクエア最新図説生物（第一学習社）

科目の目標	
<p>日常生活や社会との関連を図りながら、生物や生物現象について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けながら観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。</p> <p>生物や生物現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度と、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を養う。</p>	

評価の観点とその趣旨	
①知識・技能	生物や生物現象について理解をするために、基本的な知識や観察・実験の技能を身につけている。
②思考・判断・表現	生物や生物現象について理解を深めるために、発展的な知識や生物現象が生じる因果関係について考え、表現することができる。
③主体的に学習に取り組む態度	日常生活や社会との関連を図りながら、生物や生物現象と主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を身につけている。
評価方法	
① 各種テストの知識を問う問題、観察実験での実験操作 ② 各種テストの思考を問う問題、課題や観察実験のレポート ③ 観察実験の参加、観察実験のレポートなど	

学習計画						
月	単元名	使用教科書項目	単元や題材など内容のまとめりごとの学習目標	評価の観点		
				①	②	③
4月	序章	顕微鏡観察の基本操作	顕微鏡の操作方法やスケッチの技法を身につける。	○		○
5月	第1章 生物の特徴	生物の多様性と共通性 エネルギーと代謝 呼吸と光合成	生物は多様でありながら共通性をもっていることを理解する。生命活動にはエネルギーが必要であることを理解する。呼吸や光合成の過程でATPが合成されることを理解する。	○	○	
6月 7月	第2章 遺伝子とそのはたらき	遺伝情報とDNA 遺伝情報の複製と分配 遺伝情報の発現	DNAは2本のヌクレオチド鎖からなる二重らせん構造をしていることを理解する。タンパク質のアミノ酸配列は、DNAの塩基配列によって決まることを理解する。	○	○	○
9月 10月 11月	第3章 ヒトの体内環境の維持	体内での情報伝達と調節 体内環境の維持のしくみ 免疫のはたらき	体内での情報伝達が、からだの状態の調節に関係していることを理解する。ホルモンと自律神経のはたらきによって、体内環境が維持されていることを理解する。からだに異物を排除する防御機構が備わっていることを理解する。	○	○	○
12月 1月 2月 3月	第4章 生物の多様性と生態系	植生と遷移 植生の分布とバイオーム 生態系と生物の多様性 生態系のバランスと保全	植生の成りたちや相観について理解する。世界各地には、多様なバイオームが成立していることを理解する。生物どうしの関係が種多様性の維持にかかわっていることを理解する。生態系がもつ復元力について理解する。	○	○	○

教科	科目	単位数	学年	集団
理科	化学基礎	1	2	文系

使用教科書	副教材等
化学基礎 (数研出版)	新編アクセス化学基礎 (浜島書店) フォローアップドリル化学基礎3冊 (数研出版)

科目の目標
物質とその変化に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、物質とその変化を科学的に探究するために必要な資質・能力を育成することを目指す。

評価の観点とその趣旨	
①知識・技能	化学に関する事物・現象について、基本的な概念や、原理・法則を理解し、科学的に探究する方法を身に付けている。
②思考・判断・表現	化学的な事物・現象に問題を見出し、探究する過程を通して、事象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。
③主体的に学習に取り組む態度	化学的な事物・現象に関心や探究心をもち、それらに主体的に関わるとともに、科学的態度を身に付けている。

評価方法
① 各種テストの知識を問う問題への解答 ② 各種テストの思考・表現を問う問題や各単元ごとの課題における解答 ③ 課題に対する自主的な取組状況

学習計画						
月	単元名	使用教科書項目	単元や題材など内容のまとめりごとの学習目標	評価の観点		
				①	②	③
1 学期 前半	知識の確認	第1編 物質の構成と化学結合 ・物質の構成 ・物質の構成粒子 ・粒子の結合	・構成粒子の違いによる物質の違いを確認できている。 ・混合物と単体、化合物の違い、分離の方法と原理を確認し、原子の構造や電子配置、分子式、イオン式、組成式が確実に書ける。 ・結合の種類と特徴を確実に区別できる。 ・分子間の結合によってできる物質の性質の違い、金属原子間の結合及び金属からなる物質の性質を確認できている。	○	○	
	中間試験			○	○	
1 学期 後半	知識の確認	第2編 物質の変化 ・物質と化学反応式 ・酸と塩基の反応 ・酸化還元反応	・物質と溶液の濃度を正しく表わすことができる。 ・水溶液の液性と強弱、水素イオン濃度、pHについて正しく理解できている。 ・酸と塩基の性質と中和反応の原理について正しく理解できている。 ・酸化と還元が電子の授受によることを正しく理解できている。	○	○	
	期末試験			○	○	

教科	科目	単位数	学年	集団
保健体育	体育	2	2年	

使用教科書	副教材等
現代高等保健体育（大修館701）	現代高等保健体育・図説現代高等保健体育（大修館701）

科目の目標
<p>体育の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続するとともに、自己の状況に応じて体力の向上を図るための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 運動の合理的・計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的・計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養う。</p> <p>(3) 運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするなどの意欲を育てるとともに、健康・安全を確保して、生涯にわたって継続して運動に親しむ態度を養う。</p>

評価の観点とその趣旨	
①知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> ・運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の多様性や体力の必要性について理解している。 ・運動の合理的、計画的な実践を通して、運動が豊かに継続することができるようにするための技能を身に付けている。
②思考・判断・表現	<p>自己や仲間の課題や豊かなスポーツライフを継続するための課題を発見し、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・合理的、計画的な解決に向けて思考し判断する力を身に付けている。 ・解決の仕方や気付いたこと等について自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を身に付けている。
③主体的に学習に取り組む態度	<p>運動における競争や協働の経験を通して、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公正、協力、責任、参画、共生などの意欲を高めようとしている。 ・健康・安全を確保したり、運動を主体的に取り組もうとしている。

評価方法	
<ul style="list-style-type: none"> ・運動の知識・技能の点検、確認、分析（ルール等の小テスト、スキルテスト、発表会、学習プリント・ノート等） ・記述の点検、確認、分析（学習プリント・ノート、グループワーク等） ・行動の観察、確認（グループ活動の姿勢、安全性の確保、授業への取組状況 等） 	

学習計画						
月	単元名	使用教科書項目	単元や題材など内容のまとまりごとの学習目標	評価の観点		
				①	②	③
4	体づくり運動	体ほぐしの運動 (集団行動、体ほぐし)	集合、整頓、列の増減、方向変換などの仕方を理解し、行動できる。	○		
			定期的・計画的に運動を継続することは、心身の健康、健康や体力の保持増進につながる意義があることを理解できる。	○		
			いろいろな体ほぐしの運動を行うことを通して、気付いたり、仲間と関わりあったりしている。		○	
			集団行動や体ほぐし運動を主体的に取り組むとともに、健康・安全を確保し活動している。			○

5	陸上競技	100M走 ハードル走	記録の向上につながる動きのポイントを理解し、技術と関連させた運動や練習を継続して行うことができる。	<input type="radio"/>		
			合理的なフォームを身に付けることで記録の向上を図ることができる。	<input type="radio"/>		
			自己や仲間の技術的な課題やその課題解決に有効な練習方法の選択について、自己の考えを伝えることができる。		<input type="radio"/>	
			主体的に取り組むとともに、結果を冷静に受け止め、課題解決に向けて、お互いに助け合い、教え合おうとしている。			<input type="radio"/>
6	水泳	クロール、平泳ぎ	各種目で用いられる技術の名称やポイントを理解し、それぞれの技術を実践することができる。	<input type="radio"/>		
			合理的な動きと自己の動きを比較して、成果や改善すべきポイントを見付けることができる。		<input type="radio"/>	
			主体的に取り組むとともに、事故防止の心得を遵守し健康・安全を確保している。			<input type="radio"/>
9	体づくり運動	新体力テスト 体力を高める運動	運動には体力向上の原則があることを理解し、運動のねらいやバランスを考え、自分にあった運動を計画し取り組むことができる。	<input type="radio"/>		
			運動のねらいや体力の程度を踏まえ、自己や仲間の課題に応じた強度、時間、回数、頻度を設定することができる。		<input type="radio"/>	
			主体的に取り組むとともに、危険の予測をしながら回避行動をとるなど、健康・安全を確保することができる。			<input type="radio"/>
10	体育理論	運動・スポーツの 学び方	運動やスポーツの効果的な学習の仕方について理解している。	<input type="radio"/>		
			運動やスポーツの効果的な学習の仕方について、課題を発見し、よりよい解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝えることができる。		<input type="radio"/>	
			運動やスポーツの効果的な学習の仕方についての学習に主体的に取り組むことができる。			<input type="radio"/>
11	球技	ゴール型 ・バスケットボール(男子) ・ハンドボール(女子)	球技において用いられる技術や戦術、作戦には名称があり、それらを身に付けるためのポイントについて、理解している。	<input type="radio"/>		
			安定したボール操作と空間を作り出すなどの動きによってゴール前への侵入などから攻防をすることができる。		<input type="radio"/>	
			攻防などの自己やチームの課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができる。		<input type="radio"/>	
			主体的に取り組む、互いに助け合い、教え合おうとしている。			<input type="radio"/>
12	体育理論	運動・スポーツの 学び方	運動やスポーツの技能と体力及び障害、上達過程、健康・安全の確保の仕方について理解している。	<input type="radio"/>		
			運動やスポーツの効果的な学習の仕方について、課題を発見し、より良い解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝えることができる。		<input type="radio"/>	
			課題を発見するための意見交換などの学習に自ら進んで取り組んでいる。			<input type="radio"/>

1	陸上競技	長距離走	自己の体力や技能の程度に合ったペースを維持して走ることができる。	<input type="radio"/>		
			記録の向上に有効な練習方法のやり方について、自己の考えを伝えることができる。		<input type="radio"/>	
			一人一人の技能の違いに応じた課題に主体的に取り組んでいる。			<input type="radio"/>
3	球技	ゴール型 ・サッカー（男子） ネット型 ・バレーボール（女子）	選択した球技において用いられる技術や戦術、作戦には名称があり、それらを身に付けるためのポイントについて、学習した具体例を挙げている。	<input type="radio"/>		
			役割に応じて、拾ったりつないだり打ち返したりすることができる。	<input type="radio"/>		
			選択した球技について、合理的な動きと自己や仲間の動きを比較して、成果や改善すべきポイントとその理由を仲間に伝えている。		<input type="radio"/>	
			球技の学習に主体的に取り組もうとしている。			<input type="radio"/>

教科	科目	単位数	学年	集団
保健体育	保健	1	2	

使用教科書	副教材等
現代高等保健体育（大修館701）	現代高等保健体育・図説現代高等保健体育（大修館701）

科目の目標	
<p>保健の見方・考え方を働かせ、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、生涯を通じて人々が自らの健康や環境を適切に管理し、改善していくための資質・能力を育成することを目指す。</p> <p>(1) 個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるとともに、技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、目的や状況に応じて他者に伝える力を養う。</p> <p>(3) 生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。</p>	

評価の観点とその趣旨	
①知識・技能	個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるとともに、技能を身に付けている。
②思考・判断・表現	生涯を通じる健康について自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、目的や状況に応じて他者に伝える力をつける。
③主体的に学習に取り組む態度	生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを主体的に考えることができる。

評価方法	
<ul style="list-style-type: none"> ・知識・技能の点検、確認、分析（定期テスト、小テスト、応急手当スキルテスト、学習プリント・ノート等） ・記述の点検、確認、分析（学習プリント・ノート、グループワーク等） ・行動の観察、確認（課題レポートやその他提出物等への取組状況、授業への取組状況 等） 	

学習計画						
月	項目	単元	単元や題材など内容のまとめりごとの学習目標	評価の観点		
				①	②	③
4	生涯の各段階における健康	⑦思春期と健康 ・ライフステージと健康 ・思春期と健康 ・性意識と性行動の選択 ・妊娠・出産と健康 ・避妊法と人工妊娠中絶	思春期における心身の発達や性的成熟に伴う身体面、心理面、行動面などの変化に関わり、健康課題が生じることがあることを理解できるようにする。	○		
			思春期と健康について、習得した知識を基に、心身の発達や性的成熟に伴う健康課題を解決するために、性に関わる適切に整理している。		○	
5						
6			思春期と健康や妊娠・出産について、課題の解決に向けての話し合いや意見交換などの学習活動に主体的に取り組んでいる。			○

7	生涯の各段階における健康	結婚生活と健康	結婚生活について、心身の発達や健康の保持増進の観点から理解できるようにする。	○		
9			結婚生活と健康について、習得した知識を基に、結婚生活に伴う健康課題の解決や生活の質の向上に向けて、保健・医療サービスの活用方法を整理している。		○	
10			結婚生活について、課題の解決に向けての話し合いや意見交換などの学習活動に主体的に取り組んでいる。			○
11		加齢と健康	中高齢期を健やかに過ごすためには、若いときから、観光診断の定期的な受診などの自己管理を行うこと、生きがいを持つこと、運動やスポーツに取り組むこと、家族や友人などと良好な関係を保つことを理解できるようにする。	○		
12			加齢と健康について、習得した知識を基に、中高年期の疾病や事故のリスクを軽減のための個人の取り組みと社会的対策を評価している。		○	
			加齢と健康について、課題の解決に向けての話し合いや意見交換などの学習活動に主体的に取り組んでいる。			○
1	安全な社会生活	応急手当 ・応急手当の意義 ・日常的な応急手当 ・心肺蘇生法	適切な応急手当は、障害や疾病の悪化を軽減できること。応急手当には、正しい手順や方法があることを理解できるようにする。また、心肺蘇生法などの応急手当を適切に行うことができるようにする。	○		
2			応急手当について、習得した知識や技能を事故や災害で生じる障害や疾病に関連付けて、悪化防止のための適切な方法に応用している。		○	
			応急手当について、課題の解決に向けての話し合いや意見交換などの学習活動に主体的に取り組んでいる。			○

教科	科目	単位数	学年	集団
外国語科	英語コミュニケーションⅡ	4	2年	文系

使用教科書	副教材等
FLEX English Communication II (増進堂)	FLEX English Communication II 予習&授業ノート 他

<p>科目の目標</p> <p>(1) 外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの理解を深めるとともに、これらの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2) コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりすることができる力を養う。</p> <p>(3) 外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。</p>
--

評価の観点とその趣旨	
知識・技能	受け身の不定詞や複合関係代名詞など、本書で学習する文法に加えて、語彙や表現などの用法や意味を理解している。また、報告文や新聞記事などの多様な英文から情報を読み取り、整理しながら理解したり、自身の考えや意見を学習した語句や文を適切に活用して、発信したりする技能を身につけている。
思考・判断・表現	日常的、社会的な話題の説明を聞いたり読んだりして、情報や考えなどの概要や要点を的確に捉えている。また、本書で学習した内容について、自身の考えや意見を明確な理由や根拠とともに、詳しく伝えている。
主体的に学習に取り組む態度	日常的、社会的な話題についての内容を理解しようとしている。また、学習した内容を相手に配慮しながら、主体的、自律的に伝えようとしている。理解した情報ややり取りをした内容について効果的な理由や根拠とともに、まとまりのある文章を書こうとしている。 継続的な学習や活動の成果、結果から自身でフィードバックを行い、個々の目標達成に応じて改善を試みようとしている。

学習と評価の計画														
時期	単元	単元の目標					総括のための観点別学習状況の評価の記録					評価場面	評価方法	
		主な領域		CE FR	主な領域において何ができるようになるのか	L	R	I	P	W				
		CAN-DO	ID											
領域	NO	記号												
1 学期 前半	L1	LI	1	ア	A2	<ul style="list-style-type: none"> 「アニメ聖地巡礼」とは何なのかを理解し、それが地域にもたらす利点と問題について本文から読み取ることができる。 「受け身の不定詞」「受け身の進行形」を理解し、この表現が含まれる英文を書くことができる。 自分のお気に入りの作品の聖地について情報を集め、ペア同士で紹介し合うことができる。 本文に出てきた語句の意味を理解し、正しく発音することができる。 	思		知	思			授	PFT
	L2	W	1	ア	A2	<ul style="list-style-type: none"> 岩谷圭介氏が行うふうせん宇宙撮影と岩谷氏がふうせん宇宙撮影を始めたきっかけを本文から読み取ることができる。 岩谷氏の夢を追求する姿勢と彼の著者へのメッセージを本文から読み取ることができる。 「助動詞+完了形」「受け身の完了形」この表現が含まれる英文を書くことができる。 今までで経験した困難についてとそれをどのようにして克服したかを80語程度の英文で書くことができる。 本文に出てきた語句の意味を理解し、正しく発音することができる。 		知	思		知	思	他	PT
1 学期 後半	L3	R	1	イ	A2	<ul style="list-style-type: none"> 私たちの生活における様々な塩の役割を本文から読み取ることができる。 「If節のない仮定法」「動名詞の意味上の主語」この表現が含まれる英文を書くことができる。 本文に出てきた語句の意味を理解し、正しく発音することができる。 		知	思				定	PT
	L4	P	1	イ	A2	<ul style="list-style-type: none"> ウミガメのからだの特徴や生態、さらに赤ちゃんウミガメや大人のウミガメが直面している問題を本文から読み取ることができる。 「As ifを用いた仮定法」「疑問詞+to do」を理解し、この表現が含まれる英文を書くことができる。 静岡県におけるウミガメ保護の活動について調べ、その活動内容とウミガメを救うために私たちができることについて英語で発表することができる。 本文に出てきた語句の意味を理解し、正しく発音することができる。 		知	思		知	思	授	PT/PFT
2 学	L5	R	2	イ	B1	<ul style="list-style-type: none"> ヒューストン空港での待ち時間の事例から、①待ち時間の心理状態とそれを考慮した生活の中の工夫、②待ち時間に対する期待が与える心理的影響、③待ち時間に対する公平さについて、本文から読み取ることができる。 「同格を導く接続詞that」「関係副詞の非制限用法」を理解し、この表現が含まれる英文を書くことができる。 本文に出てきた語句の意味を理解し、正しく発音することができる。 		知	思				定	PT

期前半	L6	L I	2 3	イ	B1	<ul style="list-style-type: none"> ・失読症を抱える人のエピソードや失業してホームレスになった人のエピソードを通して、ヒューマンライブラリーについて理解し、共生社会で生きる上で必要なことを本文から読み取ることができる。 ・「否定の分詞構文」「完了形の不定詞」を理解し、この表現が含まれる英文を書くことができる。 ・日本におけるヒューマンライブラリーの活動について調べ、英文で説明することができる。(グループワーク) ・本文に出てきた語句の意味を理解し、正しく発音することができる。 	思	態					授	PFT
	L7	R	2	イ	B1	<ul style="list-style-type: none"> ・坂氏がこれまでに被災地で行ってきた活動とその功績、坂氏が設計する建築、建築を志したきっかけ、今後のプロジェクトと若者へのメッセージを本文から読み取ることができる。 ・「部分否定」「If S' were to V', S would V ...」を理解し、この表現が含まれる英文を書くことができる。 ・本文に出てきた語句の意味を理解し、正しく発音することができる。 		知	思				定	PT
2 学期 後半	L8	W	3	ア	B1	<ul style="list-style-type: none"> ・インフルエンザとかぜの違い、バクテリアとウイルスのそれぞれのしくみ、エドワード・ジェンナーによるワクチン開発の歴史、感染症が広まった歴史と今後人類が感染症とどう向き合っていくかについて本文から読み取ることができる。 ・「付帯状況のwith」「受け身の分詞構文」を理解し、この表現が含まれる英文を書くことができる。 ・Covid-19について調べ、分かったことや感染しないために気をつけること、自身がコロナウイルスによって受けた生活上の制約について80語程度の英文を書くことができる。 ・本文に出てきた語句の意味を理解し、正しく発音することができる。 		知	思		知	思	他	PT
	L9	R	2	イ	B1	<ul style="list-style-type: none"> ・コンゴ共和国の実情とサブールの精神、歴史、信念について、サブールによって人生が変わった一人の若者の例を本文を通して理解することができる。 ・「倒置」「完了形の分詞構文」を理解し、この表現が含まれる英文を書くことができる。 ・本文に出てきた語句の意味を理解し、正しく発音することができる。 		知	思				定	PT
3 学期	L10	W	3	ア	B1	<ul style="list-style-type: none"> ・Googleを作ったラリー・ページという人物について、彼がどのようにGoogleのアイデアを思いついたのか、夢の実現するためのスローガンと夢をもつことに対するラリー・ページの考えについて本文から読み取ることができる。 ・ラリー・ページの夢を実現するためのアドバイスを読み、それに対する自分の感想を80語程度の英文で書くことができる。 ・「複合関係代名詞」「二重否定(肯定の意味を表す)」を理解し、この表現が含まれる英文を書くことができる。 ・本文に出てきた語句の意味を理解し、正しく発音することができる。 		知	思		知	思	他	PT

※総括のための観点別学習状況の評価の記録：知(知識・技能)、思(思考・判断・表現)、態(主体的に学習に取り組む態度)

※評価場面：授(授業内)、定(定期テスト等)、他(課題内容等)

※評価資料：PT(ペーパーテスト等)、PFT(パフォーマンステスト)、PT/PFT(ペーパーテスト等及びパフォーマンステスト)

備考欄

教科	科目	単位数	学年	集団
外国語	論理・表現Ⅱ	2	2	全員

使用教科書	副教材等
be English Logic and ExpressionⅡ Smart (いいずな書店)	教科書準拠ワークブック 他

科目の目標
言語や文化に対する理解を深め、コミュニケーションを図ろうとする態度を養うとともに、論理的な思考力を養い、論理の展開や表現の方法を工夫し、伝える能力を養う。

知識・技能	習得すべき知識や重要な概念等を理解している。それらを既存の知識及び技能と関連付けたり活用したりする中で、概念等として理解したり、技能を習得したりしている。
思考・判断・表現	知識及び技能を活用して課題を解決する等のために必要な思考力、判断力、表現力等を身に付けている。
主体的に学習に取り組む態度	知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりすることに向けた粘り強い取組の中で、自らの学習を調整しようとしている。

学習と評価の計画														
時期	単元	単元の目標					総括のための観点別学習状況の評価の記録					評価場面	評価方法	
		主な領域		主な領域において何ができるようになるのか			L	R	I	P	W			
		CAN-DO ID	CE FR											
領域	NO	記号	FR											
1 学期 前半	L1	P	2	ア	A2	・時制を正しく用いて表現することができる。 ・将来の夢について話したり書いたりすることができる。 ・意欲的にコミュニケーションを行い、自分のことを伝え、相手の言うことを理解する姿勢が見られる。					知思態		授・定	PT
	L2	W	2	ア	A2	・名詞句や名詞節を正しく用いて表現することができる。 ・家での時間の過ごし方について話したり書いたりすることができる。 ・意欲的にコミュニケーションを行い、自分のことを伝え、相手の言うことを理解する姿勢がみられる。					知思態		授・定・他	PT
	L3	I	2	ア	A2	・助動詞を正しく用いて表現することができる。 ・学校生活について話したり書いたりすることができる。 ・意欲的にコミュニケーションを行い、自分のことを伝え、相手の言うことを理解する姿勢がみられる。					知思態		授・定	PT/PFT
1 学期 後半	L4	P	3	ア	B1	・形容詞や分詞を正しく用いて表現することができる。 ・体験から学んだことについて話したり書いたりすることができる。 ・意欲的にコミュニケーションを行い、自分のことを伝え、相手の言うことを理解する姿勢がみられる。					知思態		授・定	PT
	L5	W	3	イ	B1	・形容詞句を正しく用いて表現することができる。 ・現代社会の利便性について話したり書いたりすることができる。 ・意欲的にコミュニケーションを行い、自分のことを伝え、相手の言うことを理解する姿勢がみられる。					知思態		授・定・他	PT
	L6	I	3	イ	B1	・関係代名詞や関係副詞を正しく用いて表現することができる。 ・情報社会について話したり書いたりすることができる。 ・意欲的にコミュニケーションを行い、自分のことを伝え、相手の言うことを理解する姿勢がみられる。					知思態		授・定	PT
2 学期 前半	L7	P	3	イ	B1	・副詞を正しく用いて表現することができる。 ・ことばと思考について話したり書いたりすることができる。 ・意欲的にコミュニケーションを行い、自分のことを伝え、相手の言うことを理解する姿勢がみられる。					知思態		授・定	PT
	L8	W	3	イ	B1	・副詞句を正しく用いて表現することができる。 ・感情と心のはたらきについて話したり書いたりすることができる。 ・意欲的にコミュニケーションを行い、自分のことを伝え、相手の言うことを理解する姿勢がみられる。					知思態		授・定	PT

	L9	I	3	イ	B1	<ul style="list-style-type: none"> 副詞節を正しく用いて表現することができる。 リーダーシップの意味について話したり書いたりすることができる。 意欲的にコミュニケーションを行い、自分のことを伝え、相手の言うことを理解する姿勢がみられる。 			知思態			授・定	PT
2 学期 後半	L10	P	3	イ	B1	<ul style="list-style-type: none"> 比較表現を正しく用いて表現することができる。 日本を紹介することについて話したり書いたりすることができる。 意欲的にコミュニケーションを行い、自分のことを伝え、相手の言うことを理解する姿勢がみられる。 			知思態			授・定	PT
	L11	W	3	イ	B1	<ul style="list-style-type: none"> 仮定法を正しく用いて表現することができる。 イノベーションについて話したり書いたりすることができる。 意欲的にコミュニケーションを行い、自分のことを伝え、相手の言うことを理解する姿勢がみられる。 			知思態			授・定	PT
	L12	I	3	イ	B1	<ul style="list-style-type: none"> that節や語法などを正しく用いて表現することができる。 多様性を受け入れる社会について話したり書いたりすることができる。 意欲的にコミュニケーションを行い、自分のことを伝え、相手の言うことを理解する姿勢がみられる。 			知思態			授・定・他	PT/PFT
3 学期	L13	P	3	イ	B1	<ul style="list-style-type: none"> 存在や変化を表す表現を正しく用いて表現することができる。 観光と日本社会について話したり書いたりすることができる。 意欲的にコミュニケーションを行い、自分のことを伝え、相手の言うことを理解する姿勢がみられる。 			知思態			授・定	PT
	L14	W	3	ア	B1	<ul style="list-style-type: none"> 使役動詞や知覚動詞を正しく用いて表現することができる。 食と健康について話したり書いたりすることができる。 意欲的にコミュニケーションを行い、自分のことを伝え、相手の言うことを理解する姿勢がみられる。 			知思態			授・定	PT
	L15	I	3	イ	B1	<ul style="list-style-type: none"> 英語らしい表現方法を正しく用いて表現することができる。 世界が抱える問題とSDGsについて話したり書いたりすることができる。 意欲的にコミュニケーションを行い、自分のことを伝え、相手の言うことを理解する姿勢がみられる。 			知思態			授・定・他	PT/PFT

※総括のための観点別学習状況の評価の記録：知（知識・技能）、思（思考・判断・表現）、態（主体的に学習に取り組む態度）

※評価場面：授（授業内）、定（定期テスト等）、他（課題内容等）

※評価資料：PT（ペーパーテスト等）、PFT（パフォーマンステスト）、PT/PFT（ペーパーテスト等及びパフォーマンステスト）

備考欄

2026年度 情報科 年間授業計画表

科目名	情報 I	単位数	2	学年・類型	2 年学年	文系・理系
担当者	使用教科書	改訂版 高等学校 情報 I (数研出版)		副教材	改訂版 高等学校情報 I サポートノート	
学習目標	情報科では、情報に関する科学的な見方・考え方を重視するとともに、問題の発見・解決に向けて情報技術を適切かつ効果的に活用するための知識及び技能を身に付け、実際に活用する力を養うとともに、情報社会に主体的に参画する態度を養うことを目指している。					
学習指導計画						
時間	学習の項目	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度		
1 学期前半	第 1 編 情報社会の問題解決 第 1 章 情報とメディア	<ul style="list-style-type: none"> 「情報」がもつ意味やはたらきについて理解している。情報を評価・判断するための技能を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> 「情報」がもつ意味やはたらきについて考え、その結果を適切に表現している。 	<ul style="list-style-type: none"> 「情報」がもつ意味やはたらきについて関心をもってしている。 		
	A 情報とは何か B 情報源と情報の検証 C 情報とメディアの特性 D 問題解決のプロセス	<ul style="list-style-type: none"> 一次情報・二次情報といった情報の種類と検証する必要性や情報の信頼度を判断する方法について理解している。 クロスチェックを行って情報を検証したりするための技能を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> 情報の価値や信頼性、情報を検証する方法の思考と、判断し、その結果を適切に表現できる。 	<ul style="list-style-type: none"> 情報の信頼性や情報を検証する方法について関心をもち、積極的に情報を検証しようとしている。 		
1 学期後半	第 2 章 情報社会における法とセキュリティ	<ul style="list-style-type: none"> 情報社会を支える法規・制度について理解と背景や意義について理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> 法を遵守した判断や情報モラルに配慮した適切な判断ができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 情報社会を支える法規・制度を意欲的に学ぼうとしている。 		
	A 情報社会と法規・制度 B 個人情報の適正な利活用と保護 C 知的財産権 D 情報セキュリティ E 情報セキュリティ対策のための技術 F 情報セキュリティ対策への意義	<ul style="list-style-type: none"> 情報セキュリティの三要素をはじめとした、情報セキュリティの性質について理解し、マルウェアやサイバー攻撃など、情報セキュリティを脅かすさまざまな問題について理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> 情報を適切に利活用するための法律や個人の責任について考察し、その結果を適切に表現し、著作権などの知的財産権を保護することの必要性を考え、判断し、その結果を適切に表現している。 	<ul style="list-style-type: none"> 個人情報やプライバシーを保護することについて関心をもち、個人の責任を果たそうとしている。 		
2 学期前半	第 3 章 情報技術が社会に及ぼす影響	<ul style="list-style-type: none"> インターネット上のトラブルを理解し、情報技術を適切に活用するための知識を身に付けている。 インターネット上で適切に情報を発信・活用するための知識を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> インターネット上のトラブルの原因や対策について考え、その結果を適切に表現している。 インターネットに情報を発信する際に注意すべき点について考え、適切に情報を発信している。 	<ul style="list-style-type: none"> インターネット上のトラブルへの対策について関心をもち、主体的に対応しようとしている。 		
	A 情報技術の発展の光と影 B 情報技術の適切な活用					
2 学期前半	第 2 編 コミュニケーションと情報デザイン 第 1 章 情報のデジタル表現	<ul style="list-style-type: none"> アナログ情報とデジタル情報のちがいと特徴について理解している。 コンピュータでデジタル情報を適切に扱うための技能を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> アナログ情報とデジタル情報のちがいと特徴や利点について考え、適切に判断して、その結果を適切に表現している。 	<ul style="list-style-type: none"> アナログ情報とデジタル情報のちがいや特徴について関心をもってしている。 		
	A アナログとデジタル B デジタル情報の表現 C 文字のデジタル表現 D 音のデジタル表現 E 画像デジタル表現 F データの圧縮	<ul style="list-style-type: none"> ビット、バイトの概念や、デジタル情報の量の単位について理解している。 2進法・10進法・16進法の変換を理解し、実際に変換を行うことができる。・2の補数表現などを理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> 2進法・10進法・16進法の数の変換の方法について考え、その結果を適切に表現している。 限られたビット数で数値を表現する方法について考え、その結果を適切に表現している。 	<ul style="list-style-type: none"> デジタル情報がどのように表されるかについて関心をもち、積極的に活用しようとしている。 		
		<ul style="list-style-type: none"> 文字コード、音・画像・動画などのデジタル化のしくみについて理解し、標本化、量子化、コード化して、デジタル情報に変換する技能を理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> 文字を文字コードで表現する方法について考え、その結果を適切に表現している。 	<ul style="list-style-type: none"> 文字・音・画像・動画などのデジタル情報としてどのように表されるかについて関心をもってしている。 		
		<ul style="list-style-type: none"> データ圧縮のしくみや利点について、データの圧縮形式や特徴を理解し、ファイル形式を変換したりすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 音をデジタル化する方法について考え、その結果を適切に表現している。 	<ul style="list-style-type: none"> データ圧縮のしくみについて関心をもち、積極的に活用しようとしている。 		
		<ul style="list-style-type: none"> 情報通信技術の進展がコミュニケーション手段を変化させてきたことを理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> モールス符号で短い情報を表現することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> コミュニケーションの手段として通信が発達してきた歴史に関心をもってしている。 		
	第 2 章 コミュニケーション手段の発展と特徴					

2 学 期 前 半	A 通信とその進展 B マスコミュニケーションの進展 C 情報の発信とメディアの性質	・情報通信技術の進展がコミュニケーション手段を変化させてきたことを理解し、・モース符号で短い情報を表現する。	・情報通信技術の進展がコミュニケーション手段を変化させてきたことについて考え、その結果を適切に表現している。	・マスコミュニケーションの進展に関心をもっている。
	第3章 情報デザイン A 情報を表現する方法 B ユニバーサルデザイン	・情報伝達のメディアの性質を理解している。・情報発信の目的に応じて適切なメディアで発信することができる。	・コミュニケーションの目的や受け手の状況に応じて、情報をどのように活用・表現すればよいか考え、その結果を適切に表現している。	・情報を発信することや情報伝達のメディアに関心を持ち、情報を適切な方法で発信しようとしている。
	第4章 プレゼンテーション A プレゼンテーションとは B プレゼンテーションの流れと注意点	・プレゼンテーションとは何かを理解し、その機器を活用することができる。	・目的や対象者をふまえて、効果的なプレゼンテーションとなるよう考えている。	・プレゼンテーションの実施に関心を持ち、積極的に取り組もうとしている。
	第3編 コンピュータとプログラミング 第1章 コンピュータのしくみ A コンピュータの構成 B コンピュータのソフトウェア C コンピュータでの数値の内部表現	・コンピュータの基本的な構成について理解し、基本的な操作ができる技能を身に付けている。 ・コンピュータ本体のはたらきや補助記憶装置の種類や特徴などについて理解している。	・コンピュータの中のCPUやメモリ、補助記憶装置の役割について考えている。 ・コンピュータの能力を適切に判断することができる。	・アルゴリズムを言葉やフローチャートで表すことに関心をもっている。 ・CPUが命令を実行するしくみを理解している。
2 学 期 後 半	第2章 プログラミング A アルゴリズム B プログラミング言語とは C プログラミングの方法	・問題解決の手順・解法をアルゴリズムを用いて表現する方法を理解している。 ・それぞれの探索法の特性を理解し、その手順をアルゴリズムを用いて表現することができる。	・ソフトウェアのはたらきについて考えている。 ・アルゴリズムをフローチャートやアクティビティ図を用いて表現する技能を身に付けている。	・OSやアプリケーションなどのソフトウェアに関心を持ち、積極的に活用しようとしている。
	第3章 モデルとシミュレーション A モデル化 B シミュレーション	・プログラミング言語と自然言語のちがいについて理解している。 ・プログラミング言語の実行のしくみについて理解している。	・解決したい問題によって適切なプログラミング言語を選択する必要があることについて考えている。	・コンピュータの内部における数の表現方法について関心をもっている。
	第4編 情報通信ネットワークとデータの活用 第1章 ネットワークの仕組み A コンピュータネットワーク B 通信プロトコル C パケット通信 D 通信の信頼性 E IPアドレスとドメイン名 F wwwのしくみとURL E 電子メールの送受信のしくみ H 情報の暗号化	・LAN、WAN、インターネットの構造、モバイル通信などに関する知識を身に付けている。 ・コンピュータをLANで接続するために必要な技能を身に付けている。	・LANやインターネットなどのコンピュータによる通信とその影響について考えている。	・ルータによる経路制御のしくみやパケット通信の利点と欠点について考え、判断している。
3 学 期	第2章 データベース A データベース B さまざまな情報システム	・データベースの特徴や機能について理解している。 ・データベース管理システムの機能や、データの損失を防ぐしくみについて理解している。	・質的データと量的データのちがいを判断できる。 ・データを4つの尺度水準によって分類できる。	・データのさまざまな形式について関心をもっている。 ・コンピュータの内部における数の表現方法について関心をもっている。
	第3章 データの分析 A データのさまざまな形式 B データの収集方法 C データの種類と尺度水準 D データの分析	・データベースを活用したさまざまな情報システムについて理解している。 ・実際に運用されているデータベースや情報システムの例を知り、その特徴や利点を理解している。	・データを分析する前に、適切なデータの整理を行っている。 ・データの分析において、目的に応じた分析の方法を考え、その結果を適切に表現し	・データを整理・分析し傾向を把握することに関心をもっている。 ・データを多面的に精査しようとしている。

	評価の観点	評価内容
評価方法	① 知識・技能	① 情報と情報技術についての知識と技能、情報と情報技術を活用して問題を発見・解決する方法についての知識と技能を身に付けるとともに、情報社会と人との関わりについては、情報に関する法規や制度及びマナー、個人が果たす役割や責任について、情報と技術と併せて身に付ける。
	② 思考・判断・表現	② 情報に関する科学的な見方・考え方を働かせ、様々な事象を情報とその結び付きの視点から捉え、複数の情報を結び付けて新たな意味を見いだす力を養うとともに、問題を発見・解決する各段階で情報と情報技術を活用する過程を振り返り改善する。
	③ 主体的に学習に取り組む態度	③ 情報や情報技術を適切かつ効果的に活用して情報社会に主体的に参画し、その発展に寄与しようとする態度を身に付けていること。
	評定と評価	定期試験、課題テスト、(課題ノート及び研究レポート)などの提出状況、学習態度及び出席状況などにより、総合的にA・B・Cの評価を行う。
留意事項		